

はじめに

平成17年度(2005年)は新生「国立大学法人千葉大学」の2年目になります。中期目標・中期計画に謳われた研究目標の達成に向かって本格的に走り出した年でもあります。昨年度に加わった新しい活力のあるメンバーの力がいよいよ発揮された年でもありました。全国共同利用研究施設として、リモートセンシングの研究分野で、環境に関する衛星データのセンターとして、新しいハードディスク主体のメディアシステムへ、アーカイブの構成を転換することに、努力した時期でもあります。

大学の独立法人化に伴い、外部との強い結びつきが望まれております。センターでも長年計画していたセンターの公開を大学祭と合わせて行い、好評を博しました。十年来継続してきた国際シンポジウムと合せて、今後、発展させていくことがのぞまれます。

外部との協力に関しては、全国共同利用センターの目的に沿って共同利用研究を毎年推進してきましたが、さらに地元の企業で、世界で最大の民間気象会社である「ウェザーニューズ社」との提携も模索検討を開始しました。従来の衛星データの環境分野への応用という切り口から、地球を診断する人材を育てる人材育成教育プログラム(自然科学研究科)も、当センターが中核となって進めております。本年が立ち上げの年でしたが、今後、教育を受けた若い人たちが育って3年後が楽しみです。

本年報は独法化にいかに対応していくかの記録でもあります。

今後、皆さまの御助言、御指導、御鞭撻をお願いし、センターの発展を見守って頂きたく、この年報の挨拶と致します。

平成18年3月31日

環境リモートセンシング研究センター

センター長 竹内延夫